

2 すばらしきスポーツマンシップ

最近、海外から伝えられるニュースは痛ましい事件が多く、いたたまれない気持ちになってしまいます。そのような中、先月19日からオーストラリア・メルボルンで開催されている全豪オープンテニスでは、錦織選手の活躍が報じられ、大いに注目されたことと思います。

この大会では、ある“すばらしいスポーツマンシップ”が見られるゲームがありました。そのエピソードをご紹介します。

予選から勝ち上がって本戦に出場したティム・スマイチェック（アメリカ）は、強豪のラファエル・ナダル（スペイン）と、4時間以上の接戦の末に敗れた。

第5セット、ナダルのサービスゲームで6-5の場面でそれは起きた。

ナダルがサーブを打とうとしてトスを上げたときに、観客の一人が叫び声を上げ、結果としてナダルはサーブを失敗した。ナダルは観客席を睨（にら）みつけたが、そのときにスマイチェックは、サーブをやり直しにすべきだと主張した。ナダルはサーブを打ち直し、そのポイントをモノにすると、そのまま試合はナダルのサービスキープで終わった。

試合には敗れたスマイチェックだが、ナダルから尊敬を勝ち取った。

「彼が見せた行動は素晴らしかったと思う。リードされている場面で、ああいうことができる選手は滅多にいない。彼に感謝するとともに、彼が今日見せた姿勢は、とてつもないお手本になるものだと思う」とナダルは讃えた。

もの静かに話すスマイチェックは、ウィスコンシン州ミルウォーキー出身の27歳。今までスポーツマンシップについての疑問を持ったことはないという。そして、「ナダルだろうが誰だろうが、あのときには間違いなくプレーの妨げになっていたからね」とスマイチェックは言う。彼はうつむきながら、そしてかすかに照れたように笑顔を見せながら言葉を続けた。「僕は自分がすべき、正しいことをしたんだと思うよ」。

（「2015.01.22 TENNIS DAILY」から）



（試合後、握手する両選手。左がスマイチェック選手）